

2006 年 3 月、第 2 回 IMADR 執行委員会の際に、ルイズ・アルブール第 5 代国連人権高等弁務官を表敬訪問。



2006 年 8 月、スリランカの内戦の影響を受けている地域も津波の被害にあった。IMADR アジア委員会は収入の手段を失った女性たちにミシンを提供した。



2004 年 12 月、スマトラ沖大地震が起き、インド洋に面するインドおよびスリランカの沿岸は壊滅的な被害を受けた。どちらも IMADR のパートナー団体の拠点である。IMADR は直後に緊急支援を広く呼びかけ多額の支援金を集めることができた。このとき、災害と差別、災害と女性の人権が深刻な問題として浮上した。

2006 年、国連改革のもと人権委員会は人権理事会に改組された。47 の人権理事国で構成される人権理事会は、年 3 回通常会期が開催される。



2006 年 10 月、国連人権理事会が開催される国連欧州本部の前に立つ在りし日の IMADR 国連代表の田中・フォックス・敦子さん（左）。右は当時スタッフの小笠原純恵さん。

2007 年 1 月、ケニアのナイロビで開かれた第 7 回世界社会フォーラムに IMADR は参加し、世系に基づく差別のワークショップを開催した。



ナイロビの世界社会フォーラムにおける IMADR のワークショップ。左からペンダ・ムボウ、ニマルカ・フェルナンド、ブルナド・ファティマ・ナティサン（IMADR 顧問、理事）。



2006 年 9 月、ドウドゥ・ディエン国連特別報告者の日本公式訪問報告書が国連に提出され、それを受けて人種差別撤廃 NGO ネットワーク（ERD ネット）は外国特派員協会にて記者会見を開いた。報告書の内容について日本政府からさまざまな反論がでた。不可視化されてきたマイノリティコミュニティの実態と日本における人種差別の構造を包括的に分析した報告として、今も高く評価されている。

2007 年 2 月、ERD ネット主催のディエン報告に関する外国特派員協会での記者会見（東京、有楽町）。



2007 年 2 月、ドウドゥ・ディエン国連特別報告者の日本訪問をきっかけにして作られた人種差別撤廃 NGO ネットワーク（ERD ネット）の結成報告集会（東京・六本木）。



2007 年 3 月、第 15 回 IMADR 理事会、第 7 回総会がインドのタミール・ナドゥ州チェンナイで開催された。地元から多数のダリット団体や女性団体が参加した。インド洋大津波の爪痕がまだ生々しく残っていた。

第 15 回 IMADR 理事会での記念写真



2007 年 3 月、理事会・総会後のカースト差別および部落差別に関するパネルディスカッション。ダリットの伝統舞踊を学ぶ地元の若い女性たちが太鼓を叩きながら踊りを披露した。

第 7 回 IMADR 総会の後、参加者は 2 つのグループにわかれてダリットの村や被災地を訪問した。インド洋に面するあるダリットの漁村では、漁の道具がすべて波でさらわれた。多数の被害者も出た。ダリットには緊急支援も復興支援もすべて後回しとなり、ダリットの人びとはさらに厳しい状況に置かれた。

2007 年 3 月、IMADR の支援金でダリットの漁村に漁船が提供された。



2008 年 2 月、アフリカ系アメリカ人女性に対する差別の「交差」に関して先駆的な問題提起と研究を行なったキンバレー・クレンショーさんを招いてセミナーを開催した。クレンショーさんは 2001 年の反人種主義・差別撤廃世界会議の議論にジェンダーの視点を入れることに貢献した。

クレンショーさんを招いたセミナー。右は IMADR 特別研究員の元百合子さん。



2008 年 10 月、ジュネーブにて自由権規約委員会による日本審査が行われた。狭山えん罪事件の被害者、石川一雄さんは審査におもむき、NGO ブリーフィングにおいて「I am innocent (私は無実です)」と訴えた。自白の強要を禁止し、取り調べの可視化をうながす勧告が出た。

自由権規約委員会の審査会場での石川一雄さんと石川早智子さん。



2009 年 3 月、第 16 回 IMADR 理事会がドイツ・ベルリンにおいて開催された。インターネット上でのシンティ・ロマに対する差別的攻撃を含め、マイノリティの人権保護の強化をドイツ政府に求める要請文を採択した。

ベルリンにおける第 16 回 IMADR 理事会





2009 年 4 月、2001 年の反人種主義・差別撤廃世界会議のフォローアップとなるダーバン・レビュー会議がジュネーブの国連で開催され、IMADR も代表 2 人を送った。

カースト差別は人種差別であると訴えるパネル・ディスカッション。



アメリカ国務省の人身取引報告書（2008 年）では、日本は世界で 2 番目の人身取引大国であった。2009 年 7 月、人身取引に関する国連特別報告者のジョイ・ヌゴシ・エゼイロさんが日本を公式訪問した。IMADR を含む NGO はエゼイロさんとの協議会をもち、現状を報告した。

2009 年 7 月、エゼイロ人身売買国連特別報告者（右）との協議会（東京）。



2009 年 7 月、国連女性差別撤廃委員会（CEDAW）による第 6 回日本審査がニューヨークで開催された。マイノリティ女性としてこの間、実態調査などを一緒に行ってきた被差別部落、アイヌ民族、琉球・沖縄、在日コリアンの女性たちが審査を傍聴し、NGO として発言をした。

NGO プリーフィングでマイノリティ女性の状況について委員たちに訴えた女性たち。



2010 年 2 月、国連人種差別撤廃委員会（CERD）による第 2 回日本審査が行われた。部落差別に関して切り込んだ勧告が出され、朝鮮学校襲撃事件が大きく取り上げられた。

日本審査の直前に行った ERD ネットによる NGO プリーフィング。

2010 年 5 月、国連人権高等弁務官のナビ・ピレイさんが日本を公式訪問した。NGO との面談が 2 回行われ、そのうち 1 回はピレイさんの「被差別コミュニティの人たちと会いたい」という要望に応え、IMADR がミーティングの場を設定した。部落、アイヌ民族、琉球・沖縄、在日コリアン、移住者の代表が現状を報告した。

ピレイさんに証拠開示の必要性和再審請求について訴える石川一雄さん。



2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が起き、東京にも激震が走った。東京都港区の松本治一郎記念会館は大きな被害を受けることなく無事であった。それから 3 カ月後、会館は現在の場所（東京都中央区）に移転し、IMADR も一緒に移った。

六本木にあった IMADR オフィス。



東欧で進む右傾化と、ドイツなどでのネオナチ台頭は、社会で最も周縁に追いやられているコミュニティに牙をむく。ハンガリーでロマ家族が住む家が襲撃され家人が殺された。2011 年 6 月、ドイツ・スィンティ・ロマ中央委員会と IMADR は現地調査のミッションを派遣した。

2011 年 6 月、ミッションの代表、ニマルカ・フェルナンド理事長とロマニ・ローゼ中央委員会議長（右）。



2000 年頃よりジュネーブの国連におけるアドボカシー活動を集行的に行ってきたダリットと部落コミュニティは、その 10 年間でさまざまな成果を獲得した。それを踏まえ、あらたな戦略を編み出すための会議が 2011 年 6 月、ジュネーブで開催され、終了後、ナビ・ピレイ人権高等弁務官との意見交換の場をもつことができた。

2011 年 6 月、ナビ・ピレイさん（左端）に記念のショールを送る代表团。

